

令和7年度土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

●日時：令和8年2月12日（木） 14：00～15：30

●場所：土浦市役所3階 庁議室

●出席者：

[有識者会議委員（8名）]

大澤 義明委員、佐野 幸恵委員、森 浩孝委員、河田 輝子委員、飯田 宗一郎委員、堀越 美樹朗委員、中村 哲委員、伊藤 幹生委員

[土浦市（7名）]

小林 勉副市長、塚本 浩幸総務部長、皆藤 秀宏市民生活部長、水田 和広保健福祉部長、真家 達成こども未来部長、飯泉 貴史都市政策部長、佐賀文化振興課長

[事務局（5名）]

政策企画課：福澄 雄祐課長、小神野 昭博、中村 良、鬼脇 正臣

D X推進課：土田 俊紀課長

●配布資料：

資料1 第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」令和7年度実施状況報告書（案）

資料2 第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」

---

1 開 会

2 あいさつ

小林副市長あいさつ

3 委員長及び副委員長の選任

委員互選により、委員長は大澤委員、副委員長は佐野委員

4 議 事

(1) 第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」の進捗状況について

#### ○委員

- ・達成率の評価について、目標値の設定が適切かという検討も必要である。
- ・SNSのフォロワー数の項目について、年齢層による検証も含めて考える必要がある。
- ・観光入込客数について、花火時の入込客数だけではなく、経済効果も含めて考えるべきである。
- ・人口について、当初は2060年に8万5千にという推計もあったが、今回は10万5千人となっている。その理由としてどんなことがあったのか。

#### ○事務局

- ・目標値の設定の仕方についても、今後皆様と協議しながら検討していく。
- ・SNSのフォロワー数については、年齢層による分析が可能かを確認し、細かい検証もしていきたい。
- ・花火時の観光への波及効果は昔から課題であった。当日だけではなく期間として、観光全体として考えていきたい。
- ・人口については、10万5千人の目標に向けて、様々な視点から考えていきたい。

#### ○委員長

- ・数字の意味や解釈が大事である。

#### ○委員

- ・保育所の待機児童数について、土浦駅前には夜間に営業している店も多いため、夜間の子供の預かり施設は必要である。土浦の特性に合わせた対応で、仕事と子育てを両立しやすい環境となる。

#### ○事務局

- ・土浦は駅前を中心に居酒屋等の店舗が多いので、検討の材料にしたい。土浦の独自色を出していきたい。

○委員

- ・図書館の利用者数は、駅前の図書館の利用者数が少なかったということか。

○事務局

- ・駅前の図書館の利用者数になる。目標値の立て方もあるが、利用者が減少しているのも事実である。駅前の大規模施設、中心市街地の活性化を含めてどのように利用者増を目指していけるか考えていきたい。

○委員

- ・立派な施設であるが、利用者が減少しているという事実もあるが、逆に伸びしろでもあるので、工夫があると良い。

○委員長

- ・利用者数もあるが、質の面にもフォーカスしてほしい。

○委員

- ・人口が減少する中で、安心して妊娠・出産・子育てが出来る環境づくりが大切である。様々な支援が行われているが、現在は3世代同居が少ない。産褥期のケアとして沐浴や産後鬱への対策として相談支援があるが、退院後にケアをする施設があると良い。まず、産褥期のケアシートを充実させることから始めるのが良いと思う。

○こども未来部長

- ・産後ケアとしては、子育て支援コンシェルジュを設置し、出張相談やペアレントトレーニング、検診育児相談を実施するなど、産婦に寄り添う相談支援体制を整備している。産後ケアは、市内外11カ所の病院や産後ケア施設が利用可能となっており、それらをご利用いただくことで産後の鬱や不安の解消に努めている。人気のある施設は待つこともあるが、保健師が産婦に寄り添った対応をしている。

○委員

・昨年12月に土浦市と常陽銀行において、地方創生を目的とした包括連携協定を締結した。地方創生を目的とした包括連携協定は、土浦市が初めてである。若者の移住・定住に向けて、企業誘致や求人・求職マッチングによる新しい就労機会の提供のこれからの取組として、高校が多い土浦市において、キャリア形成支援セミナーを開催し、地元の高校生に地域の様々な企業を知っていただく機会を提供していく。高校生等の職業体験も幅広く受け入れていく予定である。また、産業振興、ブランディングについて、3月につくば市の国際会議場において、「めぶき食の商談会」を開催する。主に茨城県、栃木県周辺の食に関連する事業者数百社に集まっていたいただき、全国のバイヤー来る大規模なイベントを開催する。土浦市事業者24ブースと土浦市の観光振興等のPRを2ブース用意し、土浦市をPRするプロジェクトを考えている。包括連携協定により、地域のお役に立てるような具体的な取組を作り上げていけたらと考えている。

○事務局

・包括連携協定後、すぐに具体的な事業が進んでおり、感謝している。

○委員

- ・市民農園の利用率が100%となっているが、今後増やすことはできないのか。
- ・空き家対策について、空き家になる前に対策をできないか。

○市民生活部長

・一人暮らしの高齢者の相続で空き家となる場合が多い。事前にどんな取組ができるか研究していきたい。

○委員長

・南海トラフの地震も想定されており、横断的に取り組まなければならない。

○委員

・空き家対策では、地元でも所有者が不明な物件もある。

○副市長

・市民農園は、都市と農村の交流の一つとして、交流人口を増やすという視点で、事業拡大も視野に入れながら検討していきたい。

(2) 地方創生交付金の検証について

○委員長

・公共ライドシェアについて、事業費 7400 万円でドライバー76 人の目標なのか。

○都市政策部長

・運航開始が1月27日であり、3月末までの約3ヵ月間の人数となる。

○委員長

・一人当たり40万円の補助をしているという計算になる。

○都市政策部長

・8年度までの継続事業になっていますので、今後の利用状況を踏まえて検証していきたい。

○委員

・自転車のまち土浦について、平日の昼間はサイクリストが少ない。サイクルーズはいい企画だが、利用できない期間があるため、もっと予算を計上してほしい。

○事務局

・街中のサイクリストは増えている。違法駐輪が少ないのは、マナーが向上したためか、自転車の利用形態が変化しているのか、今後検証していきたい。

・再クルーズは、船が1隻しかないため、時期が限られるが、今後検討していきたい。

○委員

- ・移住体験ツアーから、実際に移住した人はいるのか。

○事務局

- ・確認はしていないが、今後は移住につながるようにしたい。

○委員

- ・どういう人をターゲットにしていくのか検討していただければと思う。

(3) その他

○事務局

- ・今年度は今回の1回開催で終了。
- ・本日の会議における修正等は、委員長一任とし、修正後公表する。

5 閉 会